

「子どもと子育てに関する調査」調査結果(概要版)

1 調査の目的

近年の出生率の低下、核家族化や都市化の進展や女性の社会参加など子どもと家庭を取り巻く環境が大きく変化している状況において、親と子が共に育ち合い、一人ひとりが安心と幸せを実感し、子育てに希望と喜びを持てる青森県づくりを進めていくための施策の基礎資料を得ることを目的として、5年ごとに実施している。

また、本調査で把握した県民の子育ての現状や子育て支援に関する県民ニーズ等については、平成26年度に策定している次期「わくわくあおもり子育てプラン」に反映させるものである。

2 調査概要

○平成25年度調査

- 1 調査実施地域 青森県全域
- 2 調査対象 0～15歳の子どもの親
- 3 標本数 2,000人
- 4 抽出方法 住民基本台帳をサンプリング台帳とした層化二段無作為抽出法
- 5 回収結果 1,091(回収率54.6%)
- 6 調査実施期間 平成25年9月30日～10月25日

○前回(平成20年度)調査

- 1 調査実施地域 青森県全域
- 2 調査対象 0～15歳の子どもの親
- 3 標本数 2000人
- 4 抽出方法 住民基本台帳をサンプリング台帳とした層化二段無作為抽出法
- 5 回収結果 906(回収率 45.3%)
- 6 調査実施期間 平成20年11月17日～30日

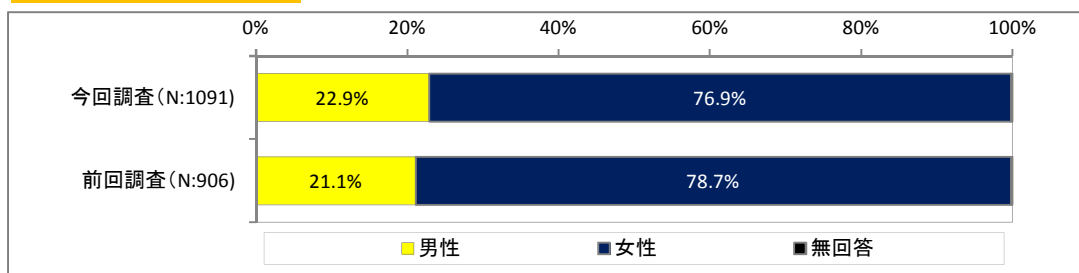
(調査項目)

回答者のプロフィール、理想の子どもの数・現実の子どもの数について、育児に関する意識について、子育て支援のための行政への要望等について、結婚に関する意識についてなど

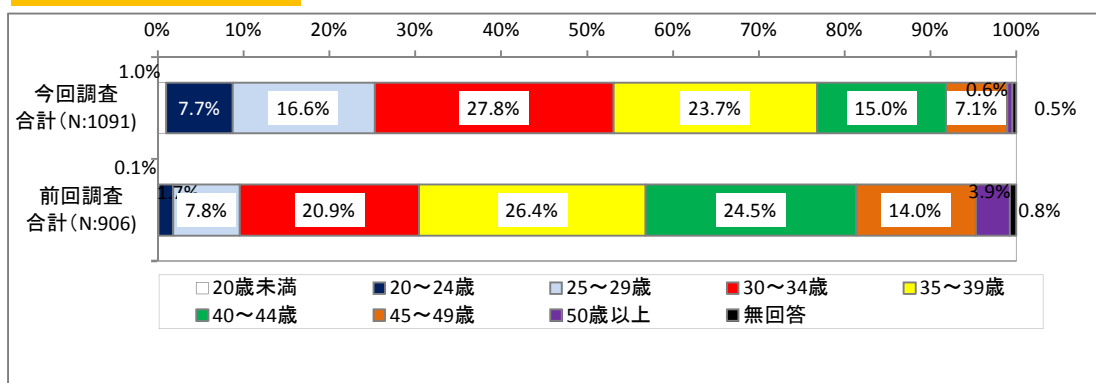
3 主な調査結果

(1)回答者のプロフィール

①回答者の性別



②回答者の年齢

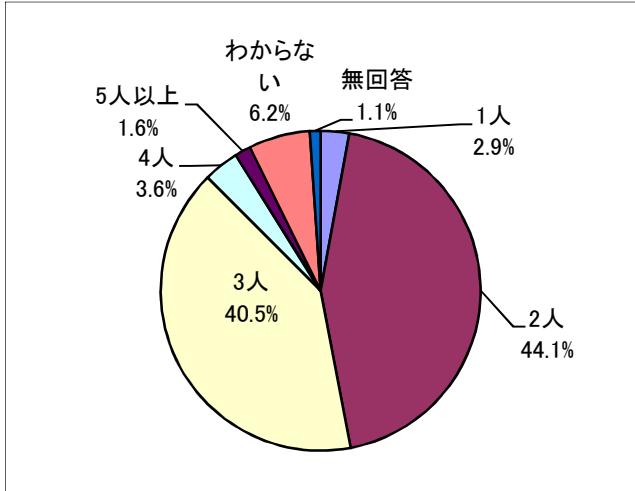


(2)理想の子どもの数・予定の子どもの数等

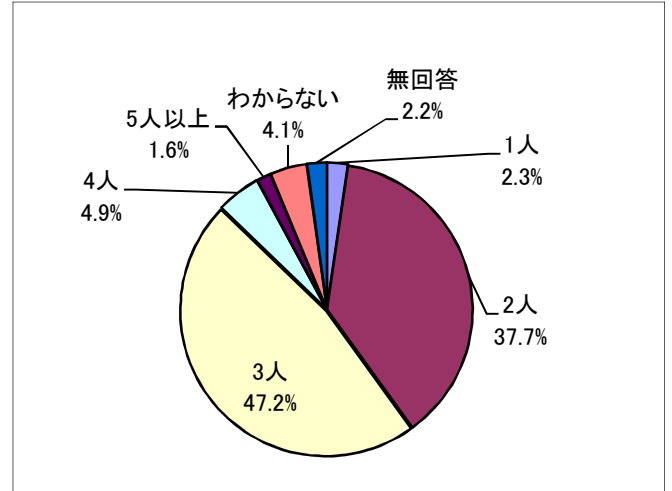
①理想とする子どもの数(1つ選択)

理想とする子どもの数は、「2人」が44.1%と最も多く、次いで「3人」が40.5%、「4人」が3.6%となっている。

今回(平成25年)



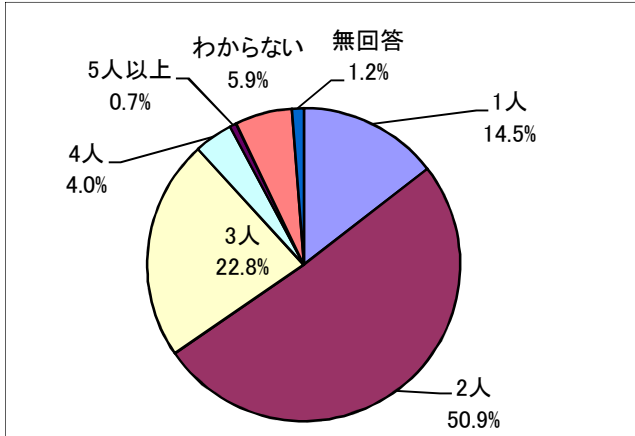
(参考) 前回(平成20年)



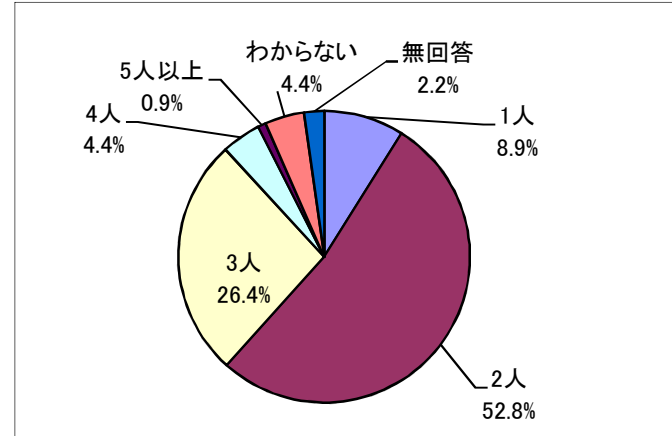
②予定の子どもの数(1つ選択)

予定とする子どもの数は、「2人」が50.9%と最も多く、次いで「3人」が22.8%、「1人」が14.5%となっている。

今回(平成25年)

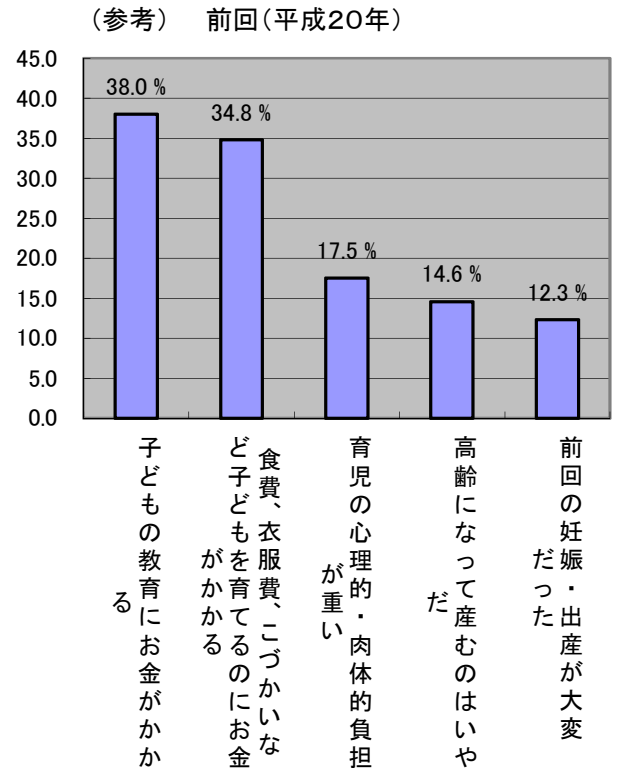
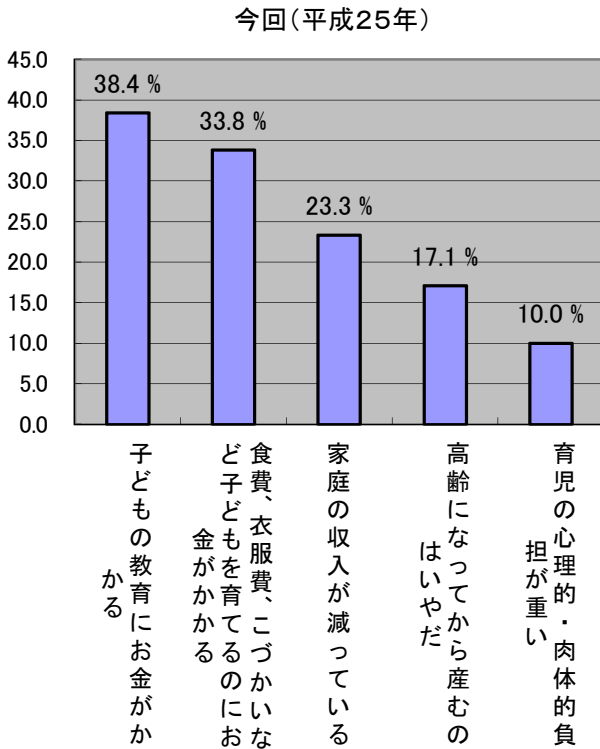


(参考) 前回(平成20年)



③ 予定の子どもの数が少ない理由(3つまで選択)

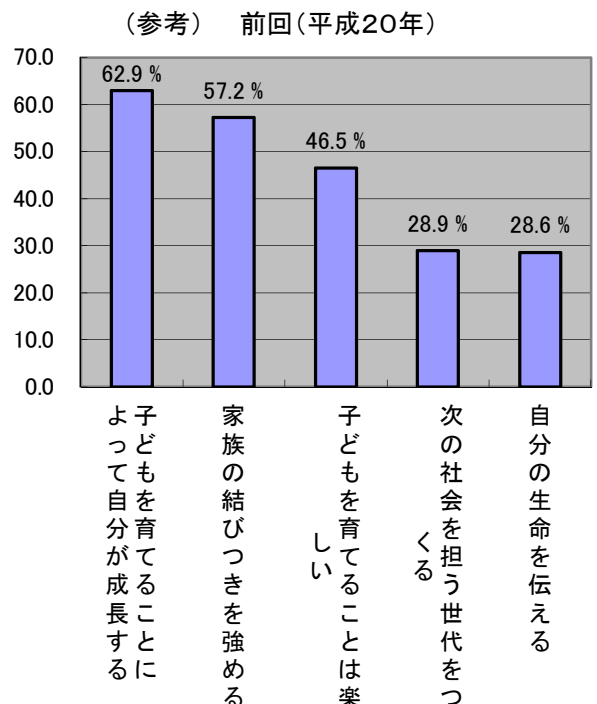
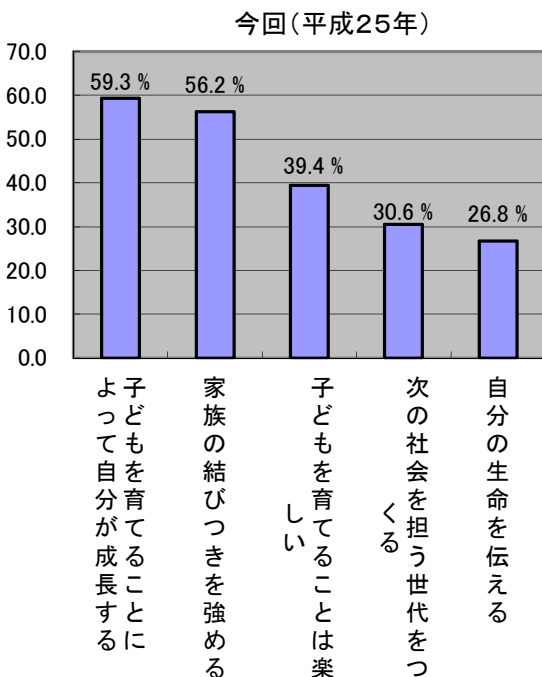
予定の子どもの数が少ない理由は、「子どもの教育にお金がかかる」が38.4%と最も多く、次いで「食費、衣服費、こづかいなど子どもを育てるのにお金がかかる」が33.8%、「家庭の収入が減っている」が23.3%となっている。



(3) 育児に関する意識について

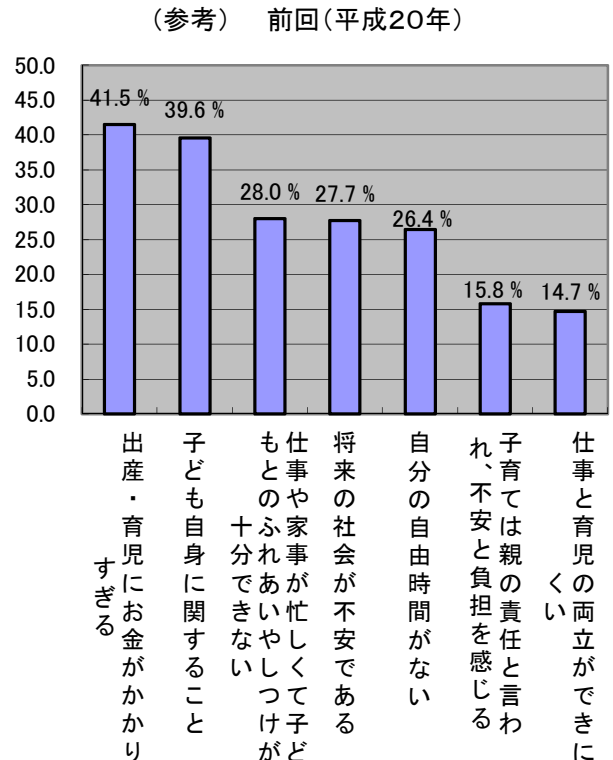
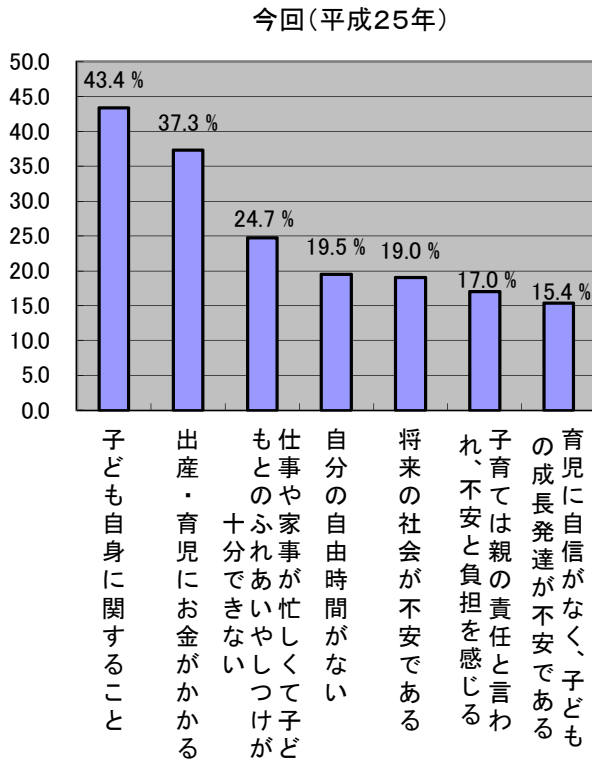
① 子どもを生み育てることの喜びや良さ(3つまで選択)

子どもを生み育てることの喜びや良さは、「子どもを育てることによって自分が成長する」が59.3%と最も多く、次いで「家族の結びつきを強める」が56.2%、「子どもを育てることは楽しい」が39.4%となっている。



②子育てをする上での不安や悩み(3つまで選択)

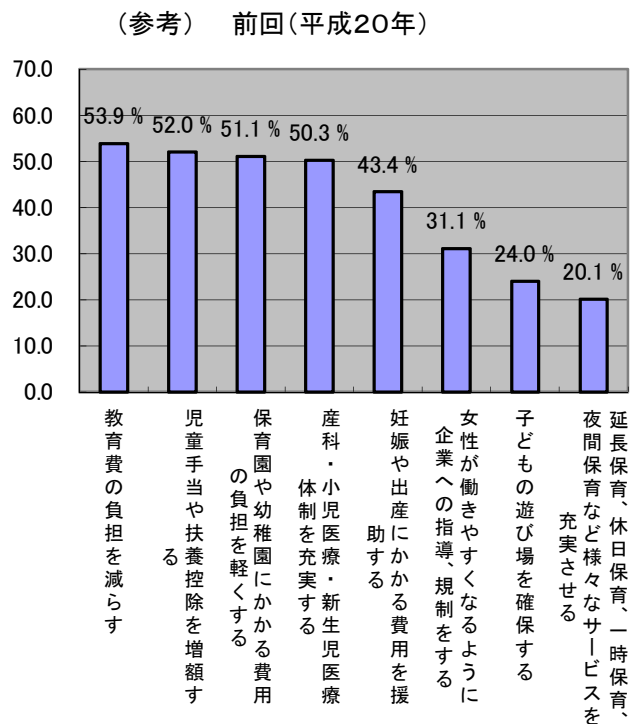
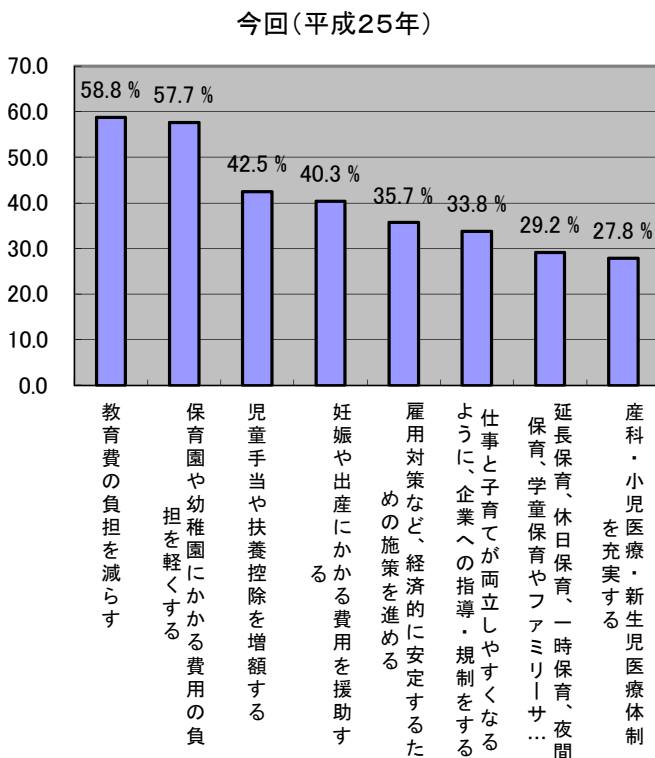
子育てをする上での不安や悩みは、「子ども自身に関すること(子どもの健康、勉強、性格やくせ、友人等)」が43.4%と最も多く、次いで「出産・育児にお金がかかる」が37.3%、「仕事や家事が忙しくて子どもとのふれあいやしつけが十分にできない」が24.7%となっている。



(4)子育て支援のための行政への要望等について

国・県・市町村に期待する政策(5つまで選択)

行政に期待する政策は、「教育費の負担を減らす」が58.8%と最も多く、次いで「保育園や幼稚園にかかる費用の負担を軽くする」が57.7%、「児童手当や扶養控除を増額する」が42.5%となっている。



(参考) 結婚に対する意識について【新規項目】

○晩婚化・未婚化の理由(3つまで選択)

晩婚化・未婚化の理由として考えられることは、「独身生活の方が自由が多い(仕事・プライベートなど)」が59.2%と最も多く、次いで「本人も周囲も結婚(結婚適齢期)にこだわらなくなった」が51.0%、「経済的に不安定で、結婚後の生活資金が足りない」が44.1%となっている。

